

2022年総合生活改善 第4回中央戦術委員会 ＜確認事項＞

＜スローガン＞

一歩一歩着実に！みんなの力で創りだそう！ 新たな時代・明るい未来

自動車総連は、第4回中央戦術委員会において以下の通り、自動車総連一体となって取り組みを進めていくことを確認した。

■回答引き出し状況

＜月例賃金＞

- ・個別賃金については、627単組が要求し、現時点において76単組が回答を引き出している。
- ・平均賃金については、賃金カーブ維持分と賃金改善分を合わせた引き上げ額全体の平均は5,092円となっている。また、賃金改善分の平均獲得額、獲得単組の割合ともに前年同時期を上回っている。
- ・個別課題の解決に向けては、職場コミュニケーション促進に向けた労使懇談会の設置や働き方改善に向けて具体的テーマを労使で設定し、中長期的な課題を協議することを確認した単組等、今後の継続的な取り組みに繋げる動きが着実に見られる。

＜年間一時金＞

- ・年間協定による回答を引き出した147単組における年間回答月数の平均は4.92ヵ月であり、その内、89単組が5ヵ月以上を獲得している。

＜働き方に関する取り組み＞

- ・自動車産業の変革期やコロナ禍を踏まえた新たな働き方を踏まえ、各職場の課題解決や生産性の向上、そして新たな時代の働き方の実現に向けた積極的な議論が行われ、職場課題の解決に向けた取り組みを加速させることができた。

＜企業内最低賃金＞

- ・85単組において協定締結水準の引き上げが行われ、その平均額は166,645円となっている。

＜非正規雇用で働く仲間の取り組み＞

- ・12組合において取り組みの進展があり、処遇改善などの回答を引き出している。賃金の有額回答があった単組の平均額は時給ベースで9.7円となっている。同じ職場で働く仲間の意欲・活力及び一体感の向上や、同一価値労働同一賃金の取り組み前進に繋がるなど、労働組合の社会的役割の観点からも、価値ある結果を引き出している。

■確認事項

<交渉状況>

- ☆ 自動車総連全体では、現時点で全体の17.0%にあたる173単組で妥結又は妥結方向に至っている。
- ☆ 産業の変革期の中で、足下の環境に左右されることなく自社や産業の将来、課題解決に向けた議論を労使が目線を合わせ、例年以上に真摯に議論を重ねることができた。そうした中で、中長期的に継続した賃金引き上げの必要性について、更に認識を深められたことが回答引き出しに繋がっていると認識している。
- ☆ 一方、これから本格化していく中堅・中小単組の回答引き出しに向けては、各社の業績を踏まえ、経営側は厳しい姿勢を示すことが予想される。今回メーカーを中心とした先行組合の充実した議論や人への投資の必要性に対する共通認識を土台にして、自社の中長期的な進むべき方向性とそのために必要な目指すべき賃金水準の実現に向け、下記観点に基づき取り組みの追い上げを図っていく。

<今後の進め方>

各単組・労連及び自動車総連本部は、現在の交渉・回答状況を認識した上で、これから交渉がヤマ場を迎える中堅・中小単組の底上げ、格差是正を確実に実現すべく、自動車総連に集う全ての単組の思いを一つに、最後まで粘り強く交渉を追い上げていく。

○全体

- ・中堅・中小単組の取り組みにおいては、直面する交渉環境の厳しさを改めて認識した上で、第3回中央戦術委員会(3/12)にて確認した「回答引き出しに向けた基本態度」のもと取り組み、「最大限の回答」を引き出す。
- ・単年度で解決できない課題については、中長期での賃金引き上げの必要性について労使の認識共有を図り、専門委員会の設置等を通じて次年度以降の取り組みに繋げる。
- ・年間一時金については、組合員の、より一層の安心・安定感の確保に繋げるべく、年間協定にこだわって交渉を進めていく。
- ・解決時期については、集中的な回答引き出しによって共闘効果を高めるべく、自動車総連全体の目標である3月末決着を強く意識して取り組む。回答引き出しが遅れる場合においては、一日でも早い解決に取り組み、遅くとも4月末までには全ての単組での決着を図る。

○各単組

- ・現在も交渉が続いている全ての単組は、「回答引き出しに向けた基本態度」に則り、自らの要求に基づく「賃上げを軸とした人への投資」の実現にこだわり、その要求を満たし得る最大限の回答を引き出すべく、最後の最後まで交渉を追い上げる。

○各労連及び自動車総連本部

- ・各労連は、加盟する中堅・中小単組の底上げ、格差是正に向けた思いを改めて認識した上で、それぞれの「最大限の回答」引き出しに繋げていくべく、引き出しに至った好事例等をタイムリーに共有するなど、具体的な戦術やサポートを展開する。
(特に#1 中戦委で確認したきめ細かな対応を要する対象単組)
- ・自動車総連本部は、各単組・労連の取り組みを後押しすべく、組織内外に対し、回答引き出し状況について、タイムリーかつ効果的な情報発信を行う。

■ 回答引き出しに向けた基本態度 (第3回中央戦術委員会<確認事項>再掲)

☆自動車総連は、最大限の回答を引き出すべく、自動車総連に集う全ての単組の思いを一つに、最後の最後まで粘り強く交渉を追い上げていくことをここに確認する。

<月例賃金(個別賃金要求・平均賃金要求)>

- 全ての単組は、自らの要求に基づく「賃上げを軸とした人への投資」の実現にこだわり、その要求を満たし得る最大限の回答を引き出すべく、最後の最後まで交渉を追い上げる。
- また、中長期での賃金引き上げの必要性について労使の認識共有を図り、専門委員会の設置等を通じて次年度以降の取り組みに確実に繋げる。
- 自動車総連本部及び各労連は、各単組の「賃上げを軸とした人への投資」を確実なものとするべく、具体的な戦術・サポートの展開、回答引き出し状況の速やかな収集・分析・共有等を行う。

<働き方の改善>

- 組合員の働きがいの向上や企業の競争力強化、自動車産業の持続的発展に向けて、「産業の変革期に負けない働き方」「With/After コロナを踏まえた新たな時代の働き方」の実現に繋がる回答を引き出すとともに、今後の継続的な取り組みに確実に繋げる。

<年間一時金>

- 産業の変革期及びコロナ禍や半導体不足における組合員の努力・頑張り・成果に報い、今後の取り組みに向けた更なる意欲・活力に繋げていくためにも、満額獲得に向け最後まで押し込む。
- 組合員の生活の安心・安定感の観点から、年間協定にとことんこだわる。
また、業績を意識した付帯事項付き回答は望ましくないとのスタンスで取り組む。

<企業内最低賃金>

- 企業内最低賃金が自社の魅力向上・人材確保のみならず、自動車産業や社会全体の底上げ・底支えに繋がることを強く意識し、協定の新規締結・水準の引き上げ・対象者の拡大に向けた最大限の回答を引き出す。

<非正規雇用で働く仲間に関する取り組み>

- 一般組合員との関連性を強く意識し、同一価値労働同一賃金の考えのもと、自ら取り組むべき賃金水準の実現を着実に進める。
- 賃金改善については具体的な有額での回答引き出しを図り、同じ職場で働く仲間の意欲・活力の向上に繋げていく。

<早期決着に向けた取り組み> ※2月4日 第1回中央戦術委員会<確認事項>再掲

- 自動車総連全体のヤマ場を3月16日(水)から3月25日(金)までとし、この間で、各単組・労連は、集中的な回答引き出しに最大限努力する。
- 主要単組における集中回答日は3月16日(水)とし、午前中に要求項目の同時回答を引き出す。
- 全ての単組は3月末解決を目指し、遅くとも4月末までの解決に強力に取り組む。
- 販売部門については3月末解決を目指し取り組むとし、3月末解決が難しい単組においては、一日でも早い解決を目指す。(販売部会確認事項)